

熊本県立人吉高等学校 (全日制) 令和7年度 (2025年度) 学校評価表

1 学校教育目標

教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉球磨地域にある普通科の高校として、心身の自己研さんに励み、これからの予測困難な時代に、郷土愛とグローバルな視野をもったリーダーを育成する。また目標達成に向けて挑戦する力やリーダーとしてふさわしい行動力を発揮し人吉球磨地域の課題解決にも積極的に関わり復興と発展を担う人材を育成する。

そのため、世界的な視野に立った学びや探究的な学びに取り組むとともに、生徒の幅広い進路実現に向けて、基礎から発展的な内容まで総合的な学力を身に付け、自ら考え主体的に取り組む教育を目指す。

また、国の「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の『創造的学習方法実践プログラム』の取組の成果を生かし、ICTを活用した先進的な学びを推進し、国内外の大学や研究機関、企業等と連携して、更なる発信力や論理的思考力の育成とともに、地域課題解決のために探究的学習を充実させ、人吉球磨地域をはじめ世界ともつながる力を育む学びを展開する。

2 本年度の重点目標

- 1 授業改革に取り組み、主体的に課題解決を目指し、多様な資料やデータを読みとり、自己の知識を活用しながら評価・表現のできる確かな学力・読解力の育成を進める。
- 2 進路指導の充実を図り、進路の多様性を認識した指導を行う。
- 3 時代の変化に応じた生徒指導、部活動指導を行い、学校行事等の活性化・魅力化に努める。
- 4 人権教育、主権者教育、消費者教育と地域との連携を推進する。
- 5 校務改革、働き方改革を進めるとともに、人材育成を図る。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	広報活動の充実	学校の教育活動及び生徒の活躍の様子の発信	保護者アンケートにおいて「学校からの情報発信が充実している」と9割以上が回答する。	ホームページの更新、学校要覧の作成、中学校や学習塾への働きかけを行う。オープンスクール、文化祭等を通じて生徒主体のPR活動を企画し、学校の広報活動を活性化させる。	B	保護者の肯定的評価は92%で目標を上回ることができた。学校HPの更新や学校要覧の作成だけでなく、オープンスクールの申込を学校HP経由にしたり、生徒主体の学校紹介動画を作成したりしたことにより、学校HPのアクセスが一時的に伸び、オープンスクールの参加人数が増えるなど、地域の本校への興味関心は増していると考えられる。より見やすいホームページの作成や生徒主体のPR活動が今後の課題である。
	働き方改革・業務改革	業務の効率化のためICT活用による環境整備	新文書保存システム移行に伴う、情報の一元化及びクラウド化を行う。	段階的にデータを新文書保存システムに移行するためのプロセスを共有し実行する。	A	7月に新文書セキュア移行に伴う職員研修を実施し、全職員に周知を行った。新文書保存システムと連動した新クラスルームを作成し、全職員が情報を共有できるように一元化できつつある。引き続き全職員が各業務を円滑に遂行できる情報の整理及び一元化できるシステムを構築していく。
		効果的な業務遂行のための職員の意識改革	衛生委員会が提案した取組の徹底を図ると共に、新たな働き方改革につながる取組を提案し、職員の年休等の	衛生委員会が提案した取組の徹底を図ると共に、新たな働き方改革につながる取組を提案し、職員の年休等の	2ヶ月に3日の定時退勤日を設定し、徹底を図る。また、全職員が年休取得10日以上を達成するよう意識改革を進める。	B

			取得率向上を図る。			とする30時間を切る月もあった。超過勤務時間が昨年と変わらず多い職員もいるため、来年度は校務分掌や部活動の担当について調整する必要がある。
学力向上	授業改革	カリキュラムマネジメントと評価システムの構築	教育課程変更に伴う適切な授業を実施して、生徒・職員へ時間を返す。業務の調整・整理により、授業準備時間を確保し授業を充実させる。評価の客観性と公平性を高める。	教育課程変更に伴い、学年により異なる日課を導入する。採点・成績処理のための短縮日課を導入する。成績処理方法の工程を見直し、効率よく正確な評価・成績処理を行う。	B	考査返却期間の延長、採点日の設定、成績処理のための短縮日課の導入および成績処理工程を見直し、正確な評価・成績処理ができた。LHR移動方式、1学年のみ32単位の週時間割であったが、来年度からLHR移動方式を廃止し、全学年32単位、火・木7限に変更する。課題としては、授業時間の確保及び上記のような時間の確保の両立、長期休業日の移動等の活用、くま川鉄道全線再開に伴う日課表の見直しが挙げられる。
		ICT運用力向上と授業実践	情報機器の利用方法を理解し、個々の生徒の実態に合わせた機器の利用及び実践を行う。	教育DX支援員と連携し、情報機器等や自動採点ソフトを活用する研修を実施する。	A	DX探究部・各教科と連携し、授業・校務で情報機器を活用することができた。百問繚乱にも慣れ、入試採点でも活用する予定である。AIに関する職員研修を教育DX支援員と連携し、職員への活用啓発を行うことができた。業務等で使用する資料の作成を支援するAI (NotebookLM)を活用した校務改善を始めている。課題としては、AI活用による授業・校務の改善、生徒のAI活用による学び方の改革が挙げられる。
	創造的学習方法の実践	探究的な学びの推進	創造的教育方法プログラムの研究成果を総合的な探究の時間に生かす。	探究の基礎の修得、探究の成果発表会の実施、地域と連携した分野別探究を推進する。	B	令和4年度から令和6年度の3年間の文科省の指定で研究されたノウハウを総合的な探究の時間を軸として再構築し、どの職員でも利用できる探究のプロセスを指導教諭や部署のスタッフと連携しながら進めることができつつある。
		クロスカリキュラム（教科横断的）授業の実践	年度末の探究の振り返り時に探究の学びと他教科との学びに繋がりを持たせたと回答した職員や生徒の割合を7割以上とする。	探究活動等で学んだ方法論や他教科での学びを関連付けるような授業実践を行う。	B	探究活動による変容について、生徒・職員ともにアンケートでは7割を超えているが、過年度と比較すると、やや減少している。指導教諭を中心に作成した各教科で利用できる探究スパイラルのワークシートを活用させ、より深い学びに繋げる予定である。
キャリア教育	進路意識の高揚	進路に関する情報提供	生徒保護者アンケートで、	道標、進路資料を用いた保護者	B	学校評価アンケートでは進路情報が「適切に提供

(進路指導)			「適切に提供されている」などの肯定的な回答を90%以上にする。	説明会の充実、教育課程説明会の充実、上級学校に関する入試説明会、上級学校のオープンスクール・オンラインイベント等や奨学金に関する適切な資料の提供をGoogle Classroomや教室・廊下掲示等、様々な媒体を活用して行う。		されている」という肯定的回答が、生徒は91%、保護者は90%であり、特に保護者においては、前年度より向上した。オンラインでの情報提供だけでなく、進路室前のオープンキャンパス日程の掲示等、紙媒体での情報提供を合わせて行ったことが高評価につながったと考えられる。職員に対しての進路情報の丁寧な提供とその活用方法の支援等が今後の課題である。
		キャリア・パスポートの活用および地域との協働	生徒保護者アンケートにおいて、「校外活動を通して地域と関わっている」などの肯定的な回答を50%以上にする。	地元の役場や企業との協働、県内大学等のフィールドワークへの参加、ボランティア活動やインターンシップ・看護体験等を充実させる。ChromeBook等でキャリア・パスポートを活用した面談や進路指導を行う。	B	学校評価アンケートでは「授業や探究活動を通して、積極的に地域と関わっている」と答えた生徒は57%となっている。地元病院との交流会、看護体験、地元企業人との交流会等を企画するだけでなく、探究活動や面談等につながるような仕掛けをしていく必要がある。キャリア・パスポートについては、DX探究部と連携し、ポートフォリオという形で作成し、面談等に活用している。
	個に応じた指導の充実 自立的・自律的に生きる力の育成	月金7限目活用および特Sプロジェクト（難関大希望生徒の進路実現）の推進	生徒へのアンケートで「学力の向上を実感している」などの肯定的な回答を90%以上にする。難関大希望者の進路実現を後押しする。	生徒の自学や補習活動の支援や各教科内研修への支援、担任面談や教科担当者の個別指導への支援と系統化、職員全体の進路指導力の醸成、特S等の担当者会議による対応協議と検討会の周知を行う。	B	学校評価アンケートでは「学力の向上を実感している」という肯定的な回答は、生徒は84%、保護者が69%となり、特に保護者の3割が生徒の学力が向上していないと感じている。定点観測である進研模試や定期考査での結果の分析と具体的な改善策の検討、各教科内研修の支援を進路指導部としてより働きかけていく必要がある。
		社会の変化に対応できる資質や能力を身につける	ポートフォリオを作成し、学期ごとに生徒が諸活動の成果を振り返ることができる仕組みを作る。	諸活動の指導者が各生徒の状況を入力できる一元化のデータを作成する。個々の生徒の実態が把握できる個票を作り、調査書や要録等にいかす。	B	今年度進路指導部として諸活動の指導を一元化できるデータを作成してはいないが、DX探究部で生徒の諸活動をまとめるポートフォリオを作成している。今後は、進路指導部としてもこのポートフォリオの効果的な活用を行っていきたい。
生徒指導	三綱領「礼節・勤労・進取」の精神の涵養と主体的に行動する生徒の育成	校則の改定と落ち着いた学校生活	今年度までの校則を現状と照らし合わせて改訂しなければならない点を生徒会・秀麗会と確認する。生徒アンケートで関連質問	「正しい判断力を持つ自律した生徒の育成」を目指し、生徒に対して常にあらゆる場面で自ら考えて行動しなければならないことを集会で何度も伝える。生	B	生徒の94%が「私は身だしなみを整えており、掃除やあいさつを進んでいます。」に肯定的な意見がある。しかし、職員は74%に止まっている。この乖離を解決することが課題である。

			に対する肯定的回答を90%以上にする。	徒会・秀麗会・生徒指導部で校則見直し会議を夏休み前と3学期の計2回実施する。その都度結果を生徒会・秀麗会・職員にフィードバックする。		
		自己肯定感の育成	各学校行事における生徒会からのformsアンケートを実施する。またその結果を報告する。	生徒会を中心とした学校行事などの取組について、できるだけ多くの生徒の意見を聞く機会を設け、その意見を検討したものを昼休みの放送等を通じてフィードバックし、学校生活における充実感を高める。	A	生徒の89%が「私は自分自身が、かけがえのない大切な存在だと思う。」に肯定的な意見である。また、82%が「私は自分自身が必要とされていると感じる。」に肯定的な意見である。また、94%は「学校行事の体育祭、文化祭、滞行は充実していて魅力あるものとなっている。」に肯定的な意見である。さらに、96%は「私は学校行事に積極的に参加している。」に肯定的な意見である。これらから、学校行事が生徒の学校生活における充実感や自己肯定感の育成に大変良い影響を与える要因となっている。
	文武両道の推進	部活動・ボランティア活動を含めた全人教育	学年会や顧問会において各学部における充実した取組を促す。生徒アンケートで肯定的回答を90%以上にする。	リーダー育成のため、部活動代表生徒の研修会を実施する。部活動やボランティアの中心生徒を対象に、リーダー育成講演会を実施する。	B	生徒の95%が、「部活動は盛んで充実した活動が行われている」に肯定的な意見であるが、「ボランティアの大切さを理解し、自主的にボランティア活動に参加している」では肯定的な意見が49%に止まっている。この原因が生徒の意識なのか、時間のなさなのか、その他の要因なのかを確認する必要がある。
人権教育の推進	道徳教育と人権教育の推進	職員の人権意識の向上	アンケートの関連質問の、教職員及び生徒の85%以上が肯定的回答をする。	職員研修を実施するとともに、校外の人権教育関係行事や研修を職員Classroomを活用して周知して参加を促し、人権教育推進委員会を活性化させる。	A	アンケートの関連質問において、生徒92(前年92)%、職員88(前年98)%が肯定的回答をした。ハンセン病講演会、部落差別に関する職員研修、ハラスメントに関するアンケートを行った。昨年度と比較して、職員の数値が下がっているため、ニーズを調査して研修内容を検討する必要がある。
		生徒の人権意識の向上	アンケートの関連項目の、教職員および生徒の85%以上が肯定的回答をする。	人権教育LHR及び人権教育講演会を実施する。学習と関連した情報提供を教育相談通信やClassroomを活用して行う。	A	スマホ安全教室(生徒指導部)、発達障がい講演会、ハンセン病講演会、DV未然防止の講演会、進路保障LHRを実施した。生徒92%、職員88%が肯定的回答をした(「人権意識の向上に役に立つ」ハンセン病99.5%、DV防

						止96.5%)。今後は、新しい人権課題についての講演会も検討していく必要がある。
	「命を大切にする心」を育む教育の充実	「自他を大切に」教育の実践	各講話、授業等のアンケートで「命、自他を大切にす意識の向上に役立った」の回答を85%以上にする。	ストレス対処教育(1年グループエンカウンター3回、2年グループエンカウンター1回、アサーション1回、3年ストレスマネジメント1回)及び性教育講演会等を実施する。	A	思春期講演会(生徒指導部)を、全学年対象で実施し、ストレス対処教育(人間関係作りプログラムやストレスマネジメントに関するSC講話、アサーション講座等)を1・2年生は各3回、3年生は1回実施した。それぞれのアンケートで、96%以上が「役に立つ」と回答した(3年SC講話「自己尊重」98.2%、2年SST「自他尊重」96.7%、1年SST99.4%)。生徒のトラブルの実態をふまえて、コミュニケーションスキルに関する講演会やLHRの実施も検討する必要がある。
いじめの防止等	いじめの早期発見 いじめ根絶への取組	いじめの早期発見と対応	生徒アンケート調査で「いじめを許さない雰囲気がある」の肯定的な回答を増加させる。いじめの事案が出て早期発見と対応を行い、解決に向かう状態を作る。	年3回のアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努め、教育相談部と連携し、必要な対応をいじめ防止対策委員会などで協議する。また、スクールサイン等の情報を利用して早期対応を実施する。アンケート結果から対応が必要な事案については瞬時に対応する。	B	生徒の82%が「本校ではいじめをなくす取組が行われている。」に肯定的な意見である。その中で心のアンケートにある「いじめをゆるさないという雰囲気があるか。」に肯定的な意見が1年67%、2年70%、3年74%と学年が上がるごとに向上している。しかし、「わからない」と答えた生徒が各学年とも24%いる。これらを細かく分析し、対応する必要がある。
		生徒会によるいじめ根絶の呼びかけ	生徒会によるいじめ根絶集会をアンケート実施後に行う。	生徒会によるいじめ根絶集会を実施し生徒会発信によるいじめのない学校づくりを全校生徒に意識づけする。また、毎月「0」のつく日の昼休みに放送を通じていじめ根絶の呼びかけを行う。	A	生徒たちが落ち着いた時間帯に呼びかけをするため、2学期からは終礼時に「いじめ0」の放送を行った。また、12月は「いじめ0」の放送の翌日の集会時に人権宣言を行い、全校生徒にいじめ・人権を考えるきっかけに大いになった。
	いじめ対策委員会の活性化	いじめの解消率100%を目指す。学校評価アンケートにおける「いじめをなくす取組が行われている」の肯定意見を10%上げる。	学年・生徒部・教育相談部と連携し、各部会で上がった生徒の様子に関して、生徒の変化に速やかに情報交換を行い、いじめに発展しないように予防に努め	B	学年・生徒部・教育相談部・情報集約担当と連携し、各会で気になる生徒の様子を挙げてもらい、情報を共有した。いじめをなくす取組を行っているが、経過観察や見守りに時間がかかるため、一朝一夕には解決には至らない。現在も見守りを続	

				る。 すぐーる等 でいじめ防 止に関する 取組の実施 を随時配信 する。いじ めの事案が 起きた場合 には解消に 向けて各関 係機関とつ ながり、解 消率100% を目指す。		けているケ ースもある 。12月22日 現在でのい じめの認知 件数は、今 年度だけで は4件、昨 年度からの 継続指導を 含めると10 件である。
地域連携 (コミュニ ティ・スク ールなど)	社会に開 かれた学 校づくり	総合型コ ミュニティ スクールに よる地域 との連携	総合型学 校運営協 議会とし て、地域の 行政機関 や保護者 、地域住 民等との 連携を深 め、学校 の魅力化 を推進す る。	学校運営 協議会を 年に2回開 催し、教育 課程の編 成や学校 経営計画 、防災体 制の充実 など、学 校運営全 般につい て改善の ための協 議を行う 。総合的 な探究の 時間等で 地元自治 体との連 携を強化 する。	A	学校経営 計画や防 災体制な ど学校運 営全般に ついて協 議を行う ことがで きた。総 合的な探 究の時間 では、1年 生の探究 活動の例 として人 吉市の水 害の歴史 について 人吉市の 教育委員 会と初め て連携し た。また 地域創生 の部門で 新たな取 組を考 えるグル ープもい れば、和 綿やくね ぶ等昨年 度から引 き継いで 取り組む グルー プもあっ た。それ ぞれの探 究活動で 地元自治 体を始め とする各 種団体へ 相談し たり、活 動への協 力を仰い だりして 交流する ことがで きた。11 月に行っ た2年生 を中心と した総合 的な探究 の成果発 表会では 、外部講 師を積極 的に活用 し、助言 を頂いた 。
		保護者や 地域、関 連機関と の連携の 確立	学校と保 護者との 連携に関 する保護 者アケー ドにおいて 7割以上 の肯定的 回答を目 指す。	秀麗会の 学年委員 会や、常 任委員会 (総務・広 報・進路 生活)活 動の充実 を図る。担 当職員と の連携を 強化し生 徒・保護 者のニーズ に合った 総務活動 (文化祭 や滞行) 、進路活 動(進路 カフェ、 挨拶運 動)、広 報活動 (PTA新 聞「秀麗 」の発行) の内容を充 実させる 。	B	保護者の 肯定的評 価は79% で目標を 達成する ことがで きた。秀 麗会の各 委員会の 活動も活 発で、特 に広報委 員会によ る新聞等 は保護者 のみなら ず生徒自 身もじっ くり見る 様子が見 られた。進 路生活委 員会で新 たに進路 カフェを 企画した 過年度卒 業生の保 護者との 交流は有 意義な機 会となっ た。役員 だけでなく 、幅広く 保護者に 参加して いただける 活動の在 り方が課 題である 。また、 すぐーる を通じて 学校から の連絡が 確実に伝 わり、担 任と保護 者間の連 絡等、双 方向の連 絡体制が 充実した 。講演会 等の行事 を保護者 や地域の方 々にも公 開し、お くんち祭 など地域 の行事に も積極的 に参加す るなど、 地域との 連携は昨 年以上に 充実した 。

4 学校関係者評価

(1) 学校運営

- ・学校の取組や生徒の活動・頑張りの様子などが学校HPに工夫を凝らして掲載されている。保護者や地域の方への情報発信はできており、これからも様々なツールを使って情報発信に努めてもらいたい。新文書保存システムへの移行により業務の効率化が図られ、先生方の働き方改革が進んでいくことを期待する。
- ・先生方の働き方改革へ向けた取組における成果が確認できた。管理職の先生方からのご指導が行き届いている結果であると感じる。

(2) 学力向上

- ・学校現場におけるAIの活用は非常に興味深いものがある。授業や公務の改善にAIを活用し、生徒の学びがどのように変わっていくのか楽しみである。
- ・生徒の学力向上及び先生方のAIに関する積極的な活用啓発が確認できた。AIを活用した授業の結果を出すには、ある程度の時間が必要だと感じた。

(3) キャリア教育（進路指導）

- ・「学力の向上を実感している」という保護者が7割を下回っているのは、学校の取組が保護者に十分伝わっていないからかもしれない。発信した情報が保護者まで伝わる指導が必要かと思われる。
- ・推薦入試と探究活動の相関が増加しつつあるとのこと、人吉高校の学びの形として少しずつ根付きつつあるようである。推薦が目的化しないよう、学びそのものへの意欲を持って欲しいと思う。

(4) 生徒指導

- ・「私は身だしなみを整えており、掃除や挨拶をすすんでする」に関して、生徒と職員の肯定的な意見の割合に差が出るのは仕方ないことである。あまり気にすることなく、これまで同様に指導していいと思う。
- ・体育祭・文化祭など学校行事に対する生徒の姿勢には素晴らしいものがある。特に文化祭における盛り上がる場面と、静かに見学する場面の切り替えは見事であった。このようなことが生徒の自己肯定感に繋がっていると思う。
- ・「自律」や「ボランティア」について、認識のばらつき、乖離などがなかなか解消されないようである。アンケートの文言を変えたり、アンケート時に解説をしたりはできないが、自分を振り返る、自己を分析する作業として考える機会があるといいと思う。

(5) 人権教育の推進

- ・人権教育に関する職員へのアンケートの結果で肯定的意見が目標の85%をクリアしているものの、昨年度より10ポイント下がっていることが気になる。研修内容を検討し、職員が主体的に取り組めて生徒の指導に生かせるのが良いと思う。
- ・人権侵害は社会が生んだもの、日常生活の中にあるものと多岐にわたり、命を大切にすることと通底している。自分の常識と人の常識は違うこと、お互いに尊重することなど、「自他を大切に教育」はとても重要と考える。引き続き指導をお願いしたい。

(6) いじめ防止等

- ・生徒会による「いじめ0」の放送、人権宣言の取組はとても良いと思う。いじめ問題の完全解消は大変困難である。生徒会の取組をはじめ先生方の指導によっていじめのない学校になってほしいと願っている。
- ・いじめは許さないという強い姿勢を感じる。また生徒への細やかな配慮がされており、いじめの解消と防止、生徒へのケアと一連での方針が確認できた。
- ・生徒が「いじめ」の定義をしっかりと理解することが大事だと考える。「わからない」と回答した生徒も、ここをしっかりと理解していない可能性も考えられるため、「いじめ」の理解度を確認するのも分析のための一つの方法ではないか。

(7) 地域連携（コミュニティスクールなど）

- ・秀麗会の各委員会の活動が意欲的で素晴らしいと思う。保護者が学校に関心を持ち、学校に関わることが生徒の健全育成に影響する。役員以外の保護者が学校に関わるような工夫を検討してほしい。
- ・連携先が拡大しつつあり、探究の深まりが見られる。人吉高校を応援したいという方は、卒業生、卒業生の保護者はじめ多数いるので、進路カフェのような場作りは素晴らしい。ロコミは対面がよい。講演会には多数の保護者、地域の方々が参加されて、拠点校らしいと思った。すぐやるような道具をうまく利用して、対面の場を多く作ることがさまざまな次の連携を産むことにつながる。
- ・学校HPは充実してきたが、最近はSNSが主流である。LINEのオフィシャルアカウントで高校を応援してくれる方々に情報発信している学校はないか（あくまで仕事が増えず、いっぺんに済むような方法で）。我々へご連絡いただくのも郵送でお手間をおかけして申し訳なく思っている。
- ・教育環境及び各御家庭の生活環境の多様化が先生方のストレスを大きく倍増させているのではないかと推察している。秀麗会としても、学校行事を上手く活用させていただきながら、本来の我が子を知るいい機会へ結びつけていきたいと思う。

5 総合評価

本校のスクール・ミッションの中にある「これからの予測困難な時代に、郷土愛とグローバルな視野をもったリーダーを育成する。また目標達成に向けて挑戦する力やリーダーとしてふさわしい行動力を発揮し、人吉球磨地域の課題解決にも積極的に関わり復興と発展を担う人材を育成する。」という目標を達成すべく、職員一丸となってそれぞれの役割を果たしている。昨年度に指定が終了した文部科学省指定事業である「創造的学習方法実践プログラム（人吉球磨ライジング構想）」を今年度の「総合的な探究の時間」につなぎ、様々な授業改革および探究的な学びの創出に向けた取組を推進してきた。

(1) 学校経営

満足度の高い学校行事や充実度の高い部活動の様子をホームページに掲載するなど、広報活動の充実を図った。自動採点システムを導入するなど、職員の働き方改革を進め、年休の取得率や時間外勤務時間が改善されてきた。

(2) 学力向上

学習指導要領の改訂に伴う学習の実情に応じた教育課程に変更をするとともに、昨年度から全学年において観点別評価が実施され、評価の客観性と公平性を高めている。総合的な学習の時間において、地域課題の解決に向けた探究活動を実践した。

(3) キャリア教育（進路指導）

進路に関する情報提供だけでなく、すべての教育活動の中で、キャリア教育に繋がる活動を実践した。進路指導部とDX探究部とが連携し、ポートフォリオを作成し、担任が進路面談等に活用できるよう準備を進めている。

(4) 生徒指導

毎年見直しを行う校則について、生徒会や秀麗会（PTA）との協議、生徒自身が当事者性を感じるよう生徒総会やクラス毎の検討会を行うなど、「正しい判断力を持つ自律した生徒の育成」を実践している。

(5) 人権教育の推進

職員研修や講演会、ストレス対処教育等、人権教育について予定通り実施でき、「自他を大切にすることを育む教育の充実」という目標を概ね達成できている。今後も、時代のニーズに応じた取組を実践していきたい。

(6) いじめ防止等

生徒の82%が「本校ではいじめをなくす取組が行われている。」に肯定的な意見である。その中で心のアンケートにある「いじめをゆるさないという雰囲気があるか。」についての肯定的な意見は、学年が上がるごとに向上している。しかし、「わからない」と答えた生徒が各学年とも24%いる。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）

総合的な探究の時間では、人吉市の水害の歴史について人吉市の教育委員会と初めて連携し活動を行った。その他、それぞれの探究活動グループで地元自治体をはじめとする各種団体に相談したり、活動への協力を仰いだりして交流することができた。11月に行った2年生を中心とした総合的な探究の成果発表会では、外部講師を積極的に活用し評価や助言を頂いた。

6 次年度への課題・改善方策

【課題1】学習指導：幅広い学力層の生徒に対する学習・進路指導の確立、保護者への情報提供（改善方策）

年々入学してくる生徒の学力の幅が広がる一方、共通テストでは多様な資料やデータを読みとり、自己の知識を活用しながら回答する問題が増加している。基礎基本の定着に課題が見られる科目もあるため、基礎基本の徹底を図る。また、大学だけでなく就職・公務員・専門学校を志望する生徒など多様なニーズに対応する指導のさらなる確立を図る。日頃の学習活動や進路指導の取組を保護者へ情報提供して、保護者からのさらなる協力を得る。

【課題2】生徒募集：学校の特色と魅力を打ち出し、生徒募集に繋げる（改善方策）

令和8年度入試では、ほぼ定員に近い志願者があった。人吉・球磨地区の児童生徒数が減少していく中、今回の結果をしっかりと分析し、学校の特色と魅力を効果的に打ち出し、生徒募集に繋げる。

【課題3】人権教育：定期的な定義の確認（改善方策）

職員の人権教育に関する意識が昨年度比-10ポイントである。職員研修の内容を再検討して、現在勤務している職員に必要な研修を行う。